

国内の子ども支援団体対象 子どものセーフガーディング連続研修 2022

募集要項

子どものための活動に携わる団体には、子どもたちが安心・安全に参加できる環境を整える責任があります。しかし昨今、国内の子ども支援の現場において、スタッフやボランティア等による子どもへの不適切行為や、その管理対応のあり方を疑問視する声が相次いでいます。そのことに心を痛め、具体的な対策を講じようという動きも生まれています。



本企画では、全 4 回の連続研修を通じて、「子どものセーフガーディング」の国際基準について学び、日本の状況を踏まえながら各団体でその実践を進めることを目指します。事前に企画説明会も行います。ご関心のある方はぜひご参加ください。



1. 目的： 子どもの支援に携わる団体が「子どものセーフガーディング」の取り組みを導入し、参加者相互の学びを通じてより具体的で機能的な実践を進める。

2. スケジュール概要：

回	開催日	概要（予定）
連続研修 1	4 月 16 日	概要、背景、定義、行動規範、最低基準、アクションプラン
連続研修 2	5 月 28 日	指針、周知、報告相談制度、リスク分析と削減
連続研修 3	6 月 25 日	子ども虐待・不適切行為、性暴力の理解と予防
連続研修 4	7 月 16 日	人材管理、広報活動、問題対応の基本、今後に向けて

※ 開催日時はいずれも、土曜日 13:00～16:00 の予定

3. 実施形態： オンライン会議方式

4. 定員： 10 団体（各団体から 1～3 名）（申し込み多数の場合は選考となります）

5. 参加費： 1 団体につき 15,000 円（全研修一括）

6. 申込： 連続研修の申込はこちらから <https://forms.gle/Yae2FQQxv7hWWMnk6>

7. 〆切： 2022 年 4 月 3 日（日）

8. 対象者および参加条件： 国内の子ども支援活動に携わっている NPO や民間団体、およびそのネットワーク等の役員や職員等を主対象とします。次の条件をご確認のうえ、団体単位でお申込みください。

- ✓ 所属団体において、子どものセーフガーディングに取り組む意欲があること。（参加者は、本研修受講と並行して、各団体の事情に添ったアクションプランを作り、自団体内のルールや制度作りなどを実践いただくことになります）
- ✓ 原則として、4 回の連続研修にすべて参加すること。やむを得ず出席できない場合には、代理の参加者を立てるか、資料や記録に目を通していただきます。
- ✓ 各団体から 2～3 名の参加を推奨します。（セーフガーディングの推進に影響力のある役員や幹部、管理職、担当者として制度作りや啓発を担う方、子どもと接する事業責任者など）
- ✓ オンライン会議アプリ Zoom や、Microsoft の SharePoint を使った文書のやり取りを予定しています。そのためオンライン環境は各自でご準備ください。アクセス・トラブルや IT 設定についてのご助言はいたしかねます。

オンラインによる企画説明会について

複数回にわたる研修のため、事前に企画説明会を開催し、参加に向けての質疑応答も行います。連続研修の申込をご検討されている方はぜひこちらの説明会にご参加ください。（連続研修は団体単位の受付ですが）この企画説明会は個人でもお申込み可能です。

※企画説明会は録画します。後で視聴を希望する方も、こちらからお申込みください。

日時： 2022年3月24日（木） 13:00～14:00
申込： 企画説明会の申込はこちらから <https://forms.gle/ErE6sCwnsoAS9TrV9>
〆切： 2022年3月16日（水）
参加費： 無料

主 催： 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
問合せ先： 金谷 naoko.kanatani@savethechildren.org
電話： 03-6859-6869 内線 161（月・火・木曜の 10:00-18:00）

子どものセーフガーディングとは

団体のスタッフによって、また事業や運営を通じて、子どもにいかなる危害も及ぼさないよう、つまり危険や虐待のリスクにさらすことのないよう努めることであり、万一、活動を通じて安全にかかわる懸念が生じたときには、しかるべき責任機関に報告を行い、それを組織の責任として取り組むことです。ここでは家庭内虐待についてではなく、事業やスタッフ・ボランティア等によって、主に事業の被益者に対してもたらす、あらゆるレベルの不適切な言動の防止に取り組みます。性的搾取・虐待は言うまでもなく、体罰や暴言、差別、ネグレクトなども含み、故意か過失かは問いません。リスク削減や安全な事業設計から、人材採用、スタッフへの啓発、通報制度、疑念案件調査や人事処遇、再発防止までの幅広い要素からなり、包括的な取り組みが必要とされています。

参加団体に取り組んでいただくこと

この企画では、研修の場で学んだことを各団体に持ち帰り、自団体の皆さんの理解を得ながら、活動実態に即したセーフガーディングの仕組みを作っていくことを目指します。そのため、連続研修の期間を通じ、参加者には以下のことを取り組んでいただく予定です。

- セーフガーディング実践のための取り組み計画
- リスク分析とその軽減策の導入
- 行動規範やルールづくり
- 報告相談窓口と問題対応の体制づくり
- 団体内外のスタッフや関係者、子どもたちへの周知

過去の研修参加者の声より

勉強になりました。日頃から新聞などで虐待に関する情報を得ていましたが、知っておしまいではなく、これから自分のできる取り組みや工夫など子どもを守るためにアンテナを張っていこうと思いました。

自分たちの活動の点検・改善をするうえで役立つものでした。オンライン参加では、普段なかなか接点がない遠方の団体の考え方などの一端に触れることができたことも、興味深かったです。

日々の活動の中で「良いこと」はすぐ言えても、「そうでないこと」はなかなか言いにくいと感じます。問題があったときなど、対応の所在をもっと分かりやすくする必要があると痛感致しました。子どもの気持ちに寄り添って、もう一度これからの行動を見直していきたいと思います。

団体によって支援対象や支援方法がかなり違うので、この研修を受けてさらに、自分たちはどうやっていくかを検討し共有する時間の確保が課題だと感じました。

子どもの最善の利益を守り、心豊かな成長・発達のために必要なことと再認識しました。また、子どもから高齢者のみならず、今後事業を実施するためにスタッフ同士でこのことを共有、胸に刻み、実施していきたいと強く感じました。